



あおもりグリーン・ツーリズムin奥津軽

「フィールド・スタディ」 ガイドブック

青森

そんな時間と出会いが
“ここ”にはある。

奥津軽



青森県の津軽地方の北西部は奥津軽とも呼ばれ、五所川原市・つがる市・鯨ヶ沢町・深浦町・板柳町・鶴田町・中泊町の7市町を有しています。五所川原市・つがる市・中泊町エリアには、岩木川を中心に広大な田園風景が広がり、鯨ヶ沢町・深浦町・板柳町・鶴田町エリアは、岩木山や白神山につながる山地を抱えるほか、西海岸と称される日本海に面しています。農業としては、米、りんご、トマト、メロン、すいか、ぶどう（ストチューベン）などの生産が盛んで、漁業としては、イカ、マグロ、ハタハタ、メバル、シジミなどの漁が営まれています。また、観光資源として、立佞武多、津軽鉄道、斜陽館、高山稲荷、十二湖、白神山地、鶴の舞橋、円覚寺などがあるほか、地元の土や歴史にこだわった陶芸や原材料にこだわった酒蔵もあります。

大学生を対象としたフィールドスタディの受入れについて

大学生の学びのフィールドとして、地域の宝である農山漁村資源や観光資源を活用した「教育プログラム」を提案しています。

少子高齢化が課題となっている地方の現状や、そこで暮らす人たちの生活を実際に来て見て体験して、皆さんの調査・研究に活用していただけるように万全のサポートをします。

机の上だけじゃ学べない、
ここだから巡りあえる、

- p03 ツアープラン
- p07 農家民泊、農業体験
- p09 地域や文化の研究・調査
- p11 五所川原市
- p13 つがる市
- p14 鱒ヶ沢町
- p15 深浦町
- p16 板柳町
- p17 鶴田町
- p18 中泊町

地元ガイドとコーディネーターの配置

フィールドスタディに同行し、
現地の案内やサポートをいたします。

農家民宿や農業体験の受入れ団体

あおもり五所川原グリーン・ツーリズム協議会
白神・ツーリズム実行委員会
りんごの里宿泊・体験推進協議会
中泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」 など

1日目 夕食

立佞武多の館集合
オリエンテーション — 13:00



体験 立佞武多見学 制作体験 — 13:30
講話 「立佞武多の復活秘話」



ポイント ● 復活に携わった館長から当時の話を聞くことができる。
● 製作途中の立佞武多の紙貼りを体験できる。
※4月中旬から6月上旬(予定)

宿泊 農家民泊 — 16:30

体験 「農家の暮らしそのままを体験」



2日目 朝食 昼食 夕食

体験 農業体験「農業から学ぶ」 — 9:00



ポイント ● 農家の仕事や暮らしを通して農村の豊かさを学ぶことができる。

体験 石窯ピザづくり — 11:00



宿泊 農家民泊 — 15:30

体験 郷土料理づくり
「農山漁村に伝わる郷土料理」



五所川原市・つが

3日目

朝食 昼食 夕食

コミュニティカフェでる・そーれ集合 9:30

講話 「津軽鉄道を軸とした
地域活性化の取り組み」



企業組合でる・そーれ

津鉄応援直売会

体験 津軽鉄道乗車 津軽五所川原駅 — 10:23

観光 小説「津軽」に登場する
太宰治の故郷探訪 — 11:00



左)太宰治記念館
「斜陽館」

右)太宰治疎開の家
「日津島家新座敷」

体験 「新しい藁文化の創造」わの学校



宿泊 中泊町ふれあいセンター — 16:30

体験 「グリーン・ツーリズムの会かけはし」
と夕食づくり



振り返り・発表

ポイント ● これまでのツアーの振り返りや感想を住民の前で発表できる。

4日目

朝食

体験 中泊町特産物直売所ピュア 9:00
見学



講話 「農林水産業の
ローカルビジネスの紹介」



株式会社小野や

ポイント ● 生産現場や製造現場を見学し直接話しを聞くことができる。
● 専門分野を活かした提案など、相互にディスカッションができる。

解散 津軽中里駅 — 12:00

参加した教員の声

東京育ちの学生の農村体験には、最初は不安しかありませんでした。

が、この4日間は、農業・農村に対する学生の見方を大きく変えました。まさに「百聞は一見に如かず」の体験でした。

(日本大学 生物資源科学部 小野 洋 教授)

青森発着 3泊4日コース 1名 53,000円(8人の場合)

- 最少人数8名/最大20名
- 人数や体験内容等により料金が異なります。
- 本パンフレットに掲載されている各メニューとの組み替えも可能です。
- 代金に含まれるもの:
宿泊3回(2食付き)、昼食2回(2日目、3日目)、体験料、施設入館料、
現地講師謝金、現地コーディネーター同行料が含まれます。
- 代金に含まれないもの:
集合・解散までの交通費、現地移動のタクシー及び貸切バス代
※電車の時刻は2019年2月現在を参考としています。

る市・中泊町を体験

1日目 夕食

板柳町ふるさとセンター集合 —— 13:00
オリエンテーション



体験 ふるさとセンター 見学 —— 13:30

講話 「りんごまるかじり条例とは」



体験 りんご木箱工場見学 —— 15:00
りんごのミニ木箱づくり



ポイント ● 熟練の木箱組み立て技を見学しミニ木箱作りができる。

宿泊 農家民泊 —— 16:30

体験 「農家の暮らしそのままを体験」



2日目 朝食 昼食 夕食

体験 農業体験「農業から学ぶ」 —— 9:00



体験 道の駅つるた 見学 —— 12:00



講話 「農林水産業のローカルビジネスの紹介」



白神アグリサービス

ポイント ● 生産現場や製造現場を見学し直接話しを聞くことができる。
● 専門分野を活かした提案など、相互にディスカッションができる。

宿泊 農家民泊 —— 16:30

体験 郷土料理づくり
「農山漁村に伝わる郷土料理」



鯉ヶ沢町・深浦町・板

3日目

朝食 昼食 夕食

体験 漁港見学、魚の調理
「漁業から学ぶ」 9:30



観光 「髪の毛と北前船の祈願寺」 円覚寺



宿泊 白神海彦山彦館 17:00

体験 「白神地産地消の会」の夕食



振り返り・発表

ポイント ● これまでのツアーの振り返りや感想を住民の前で発表できる。

4日目

朝食

観光 青池散策 8:30



体験 リゾート列車 乗車 十二湖駅



解散 新青森駅 13:30

参加した教員の声

「よくきたのー」と迎えてくれた奥津軽の人生の達人たち。農泊でも、農業体験でも、大学生の柔軟な感受性がフル回転。仲間と一緒に、食べて、働いて、自分自身が、素敵な津軽の風景の一部となった体験は、まさに学生たちの現代生活学の学びでした。

(東京家政学院大学現代生活学部 上村協子 教授)

青森発着 3泊4日コース 1名 53,000円(8人の場合)

- 最少人数8名/最大20名
- 人数や体験内容等により料金が異なります。
- 本パンフレットに掲載されている各メニューとの組み替えも可能です。
- 代金に含まれるもの:
宿泊3回(2食付き)、昼食2回(2日目、3日目)、体験料、施設入館料、現地講師謝金、現地コーディネーター同行料が含まれます。
- 代金に含まれないもの:
集合・解散までの交通費、現地移動のタクシー及び貸切バス代
※電車の時刻は2019年2月現在を参考としています。

柳町・鶴田町を体験

暮らしそのまゝを体験

郷土料理を作ったり、農作業を手伝いながら滞在。



ホッと庵・円山(五所川原市)



まさや(五所川原市)



せっちゃんのエクスベリヤンスの家(鯉ヶ沢町)



新音nyuton(板柳町)



成田農産(板柳町)



須恵器の里清久(五所川原市)

郷土料理

地元の産物を上手に活用して、風土にあった料理として作り、食べられてきました。そして食文化として受け継がれています。



この地域を代表する郷土料理は、ホタテの貝で卵味噌を焼く「貝焼き味噌」やイカをミンチにして揚げた「イガメンチ」、大根、人参、ごぼう等の野菜類、ふき、わらびなどの山菜類、油揚げ、凍み豆腐などを細かく刻んで煮込み、味噌で味付けした汁物「けの汁」です。

体験した学生の声

「ご飯(郷土料理)もとても美味しかった。今回の目標だった「郷土料理のレシピを持って帰る」も達成できた。青森の事や人として大切な事を沢山教えてもらった。とても実りある一日となった。教わった事は大切にしていこうと思う。」

「もう本当に素敵なので、あんなおばあちゃんになりたいと思いました!ご飯も美味しかった。」

「津軽弁はとても素敵だ。」

「自分たちで作って並べた料理を食べたので達成感を感じた。人生のアドバイスになる内容だった。」

「着いた頃は疲れきっていましたが体験が始まってお母さん達と一緒に作業しているうちに、いつのまにか元気になっていました。ご飯もとても美味しく楽しかった。」



米
5月に田植えをして9月下旬から収穫が始まります。
りんご
冬期間から枝を剪定(せんてい)して5月頃にきれいな花を咲かせます。収穫するまでには、花摘み作業や受粉作業、摘果作業や葉取り作業をして9月頃から11月上旬にかけて収穫していきます。
野菜
7月頃からとうもろこし、すいか、トマト、じゃがいもなどが収穫できます。



りんごの葉取り



りんご収穫



作業の合間の休憩時間



じゃがいもの選別作業



ズッキーニ収穫



メロン

農業体験

青森県として日本一を誇るりんごやスチューベン、市場の評価が高い夏秋トマト、美味しいと評判のすいかやメロン、青森県初の食味ランキング特Aを取得した「青天の霹靂」などの米が作られています。

体験した学生の声

「西瓜もメロンも本当に美味しくて東京の物より甘くて感動しました。農家の人がドンドン用意して下さいだったので沢山食べてしまいました。自慢出来る体験の一つです。」

「農家の人が、地域の子供達との交流をととても大切にしているのが伝わってきました。高価な作物を栽培されている方の話を聞いて、プチトマト収穫してその場で食べる貴重な体験が出来て良かったです。」

体験ができる主な宿泊施設

五所川原市

農家民宿「須恵器の里清久」

農作業(果樹、野菜)や郷土料理づくりの体験が可能

農家民宿「天馬」

農作業(米)や郷土料理づくりの体験が可能

農家民宿「まさや」

果樹や野菜の収穫体験が可能

農家民宿「和が家」

農作業(シクラメン、野菜)の体験が可能

五所川原市

農家民宿「ホッと庵・円山」

囲炉裏を使った調理や野菜の収穫が可能

農家民宿「ファーム白戸」

農作業(野菜、りんご)の体験が可能

農家民宿「ときどきりんご園」

農作業(りんご、ブラックベリー)の体験が可能

つがる市

農家民宿「風丸荘」

古民家、基本は素泊り、各種農作業(りんご、米、枝豆など)の体験が可能

鯉ヶ沢町

農家民宿

「せっちゃんのエスぺリヤンスの家」田舎料理づくりやアユ釣りの体験が可能

農家民宿「長谷川自然牧場」

動物とふれあうことができる

深浦町

白神海彦山彦館

「白神山地」が育んだ海の幸・山の幸を使った手作り地産地消料理を楽しむ

板柳町

農家民宿「成田農産」

農作業(りんご、にんにくなど)の体験が可能

板柳町

ふるさとセンター

コテージがありセンター内ではりんごの体験が可能

農家民宿「新音(nyuton)」

農作業(枝豆、りんご)の体験が可能

農家民宿「松幸りんご園」

農作業(りんご等)の体験が可能

中泊町

中泊町ふれあいセンター

町の公共施設で食事は中泊町グリーン・ツーリズムの会「かけはし」と一緒につくり交流できる

合言葉は 「津鉄を元気に 地域を元気に 自分を元気に」

体験した学生の声

「鉄道の車窓からの景色がとても和やかでリラックスできた。」

「ローカルさが良かった都心と違った楽しみ方がある。」



津軽鉄道

津軽鉄道は、津軽五所川原駅から津軽中里駅まで12駅、20.7 kmを走行する日本最北のローカル線です。12月から3月にかけて、ダルマストーブを設置した客車で運行するストーブ列車は、津軽の冬の風物詩として全国的な知名度があります。

津鉄応援直売会・津軽鉄道サポーターズクラブ

(五所川原市)

津軽鉄道を応援しながら地域も自分たちも元気になれる活動をしていこうと、津軽鉄道サポーターズクラブや女性生産者団体「津鉄応援直売会」等が誕生し、津軽鉄道を軸とした地域の活性化に取り組んでいます。

地域や文化の 研究・調査

土地と人々を知る

そこには、地域に対する思いが込められています。

市民の力で復活した祭り



立佞武多(たちねぶた)

(五所川原市)

戦後に起きた2度の大火で街が全焼、設計図や写真が消失し、巨大ねぶたは姿を消しました。ところが、1993年に当時の設計図と写真が発見され、翌年には市民劇団「櫓(そり)の音」により高さ7mのねぶたが復元されました。その後1996年に市民有志により「たちねぶた復元の会」が結成され、1998年、80年ぶりに「五所川原たちねぶた」が復活をなしとげました。

体験した学生の声

「ねぶた祭り当日とは違った角度から見れて貴重な体験だった。上から見たり、解体作業はここで見れないものだと思うので新鮮だった。」



農林水産業の

ローカルビジネスの可能性

創
つて(開発)、
作
つて(製造)、
売
る(販売)。

生産者自ら加工して販売したり、地場産品を活用して商品化するなど、地方ならではのビジネスがあります。
こうしたローカルビジネスの生産現場を訪ね、商品化までのストーリーや現在の取組みをご紹介します。

体験した学生の声

「ローカルビジネスについては、あまり知らなかったので想いや事業の事を知れて良かった。機械化だと思っていたら手作業と併用だったので食べる時の心かまえも変わりました。」



株式会社 小野や

(中泊町)

十三湖のしじみを販売しています。人気商品のひとつが、一杯分のお湯を注ぐだけでできる「即席しじみの味噌汁」で、しじみ真空パックと味噌がセットになっています。

少子高齢化という日本全国に共通する課題を抱える津軽も、主力産業である農業・漁業従事者が少なくなっています。そうした状況を変えようと特産物の価値を広め、生産者と生活者をつなごうと各地の物産展へ出店、通信販売を行い全国に販売しています。



企業組合 での・そーれ

(五所川原市)

コミュニティカフェでの・そーれは、津軽鉄道本社1階にあります。「生産者と消費者のつながり=絆」をコンセプトに、店内で食することができる、安心・安全な地元の食材をふんだんに使用したメニューや、地元ならではの土産を販売しています。

地域の食材を生かして商品開発された「津鉄汁」や、ストープ列車でおなじみの石炭をイメージし津軽鉄道と共同開発された「ストープ列車石炭クッキー」が代表的な商品です。



有限会社 白神アグリサービス

(鯉ヶ沢町)

転作作物の大豆、小麦そして、りんごや米、毛豆(枝豆)の栽培を行いながら、地域資源を活用したさまざまな取り組みをしています。

りんご剪定枝を活用した農業用ボイラー使用ハウスでの毛豆(枝豆)の早期収穫とグリーン・ツーリズムなど、青森県が推進している「冬の農業」にも取り組んでいます。

生産者は単なる「ものづくり」をするだけではなく、「関係づくり」をする時代に!鯉ヶ沢という地域で、「ものづくり」と「関係づくり」を構築しながら、地域の農業振興の一翼を担っています。



五所川原市

ごしよがわら



太宰治ゆかりの そばじま 俵島家

かなぎ元気村「かだるべえ」

築140年の古民家をリフォームした体験・交流施設で
様々な体験や学習ができます。



赤～いりんごを使った 果実染め

NCアパレル

五所川原でのみ栽培されてきた「御所川原(ごしよがわら)」という品種です。実すぐり(摘果)した実を使って染めると、淡いピンク色に仕上がります。



日本最北の私鉄

津軽鉄道

津軽半島観光アテンダントが乗車して「津軽弁」で沿線の見所を紹介しています。車窓からは津軽平野の四季折々の景色が楽しめ、季節ごとに様々なイベント列車を運行しています。



小説家太宰治の生家

太宰治記念館「斜陽館」

明治40年(1907)、父・津島源右衛門によって建てられた豪邸です。明治期における和洋折衷様式の名建築として2004年国の重要文化財に指定されています。



太宰治疎開の家

旧津島家新座敷

大正11年、太宰の兄・文治夫婦の新居として建てられた津島家の離れ。太宰が東京・甲府の戦禍から逃れ、妻子を連れ故郷に身を寄せていた1年4ヶ月の間に23もの作品を書き上げた邸宅です。



青森県の新たな伝統工芸

津軽金山焼

地元の土を地元の山林で風雪に耐えてきた赤松で焼き上げた陶器。深みのある独特の風合いと、日常雑器としての使いやすさが大きな魅力です。

石窯ピザづくり

ゆうあファーム

野菜をふんだんに使用したピザを石窯で焼きます。



たちねぶた

五所川原立佞武多

立佞武多の館

立佞武多祭りに出陣する大型立佞武多を観覧できるほか、新作立佞武多の製作体験、津軽の民工芸の製作体験、お囃子の練習など様々なイベントが行われる施設です。

山菜採り 須恵器の里清久

津軽は山菜の宝庫。ミズ(ウワバミソウ)、フキ、ワラビ、コゴメ、ゼンマイなど、いろんな山菜がとれます。山菜採り名人と一緒に山菜採りに出かけましょう。



豆腐づくり 三好むらづくり協議会 農産物加工センター

農村女性達が地元産の大豆を使って豆腐を作り、販売しています。大豆の風味が感じられる豆腐で、地元住民に親しまれています。



つがる市



稲わらを使ったものづくり

稲垣「藁の会」

「藁の会」のメンバーが「わの学校(旧稲垣西小学校)」を拠点に、伝統的な稲藁文化をもとに、新しい藁工芸品の創作や藁体験交流を通して新しい藁文化の創造を目指した活動をしています。



津軽亀ヶ岡焼

しきろ庵

亀ヶ岡の地は縄文時代晩期に独特の文化が花開き、出土品の多くは芸術品として知られ、学術的にも貴重とされています。この地の窯で「津軽亀ヶ岡焼」が作られています。



“東北の駅百選”にも選定

木造駅の遮光器土偶

木造駅はJR五能線の駅で亀ヶ岡石器時代遺跡から出土した遮光器土偶こと“シャコちゃん”の形をした迫力ある駅です。



映画「けの汁」

つがる市フィルムコミッション

映画やドラマを誘致することによって地域活性化、文化振興、観光振興を目的に設立。ありのままのつがる市の魅力を伝えたいと短編映画「けの汁」を制作しました。馬市まつりやりんご畑、田園風景、木造高校、ネプタなど、つがる市内の風物、名所が随所に盛り込まれています。

メロンとすいかの名産地

屏風山地帯南北を横断する道路、通称「メロンロード」周辺には、多くのメロンやすいかの畑が連なり、収穫シーズンにはメロンロードに直売所が軒を並べます。



こぎん刺し

三橋農園すずれあな

津軽地方に伝わる刺し子技法の一つです。もともとは農村の女性達が麻布の野良着の保温と補強のために木綿の糸で刺しゅうを施したもので、農家のお母さんがこぎん刺しを教えてください。





こだわりの酪農経営

ABITANIa (アビタニア)

ジャージーファーム

乳搾り等の体験学習が出来る「ふれあい牧場」、自家産生乳をふんだんに使用したアイスクリームの生産・販売やレストランなど、酪農教育ファームを通じた酪農経営を行っています。



ラベンダー摘み

マリーハーブガーデン

ラベンダー5種、その他のハーブ30種が無農薬で栽培されています。日本海を眺めながらやさしい風に包まれてみませんか。ラベンダー摘みも体験できます。



北前船の寄港地

白八幡宮奉納船絵馬群

北前船が盛んだった江戸時代後期(弘化3年:1846年)から明治時代中期(明治20年代)に航海の安全を祈願して奉納したもので中には藩御手船や洋式帆船を描いたものもあります。

わさお

焼きイカ店「七里長浜きくや商店」で、飼われている番犬。フサカワ犬「わさお」が人気となり、多くの観光客が見学に訪れています。



味噌づくり

やまだのアグリmam

地域で採れたものにこだわり、安心・安全にこだわった、ちょっとぜいたくな味噌づくりを行っています。



様々な生き物から命をいただいている

長谷川自然牧場

自然養鶏・養豚及び食品加工事業を行う畜産農家です。「様々な生き物から私たちは命をいただいている」ということを感じ、命やものに対する大切さを学んでいただくため、牧場内での受け入れ事業のほか、ソーセージ作りなどを行っています。





日本海に沈む 夕陽が見える

地産地消の宿「白神海彦山彦館」

「白神山地」が育んだ海の幸・山の幸を使った手作り地産地消料理を楽しめる宿泊施設です。地元深浦町岩崎地区のお母さんたちが（白神地産地消の会）、郷土に根付いた家庭料理をふるまいます



漁業から学ぶ漁育

新深浦町漁協女性部

漁の大変さや流通を知り漁業に対する関心や理解を深めてもらいたい、若いうちから魚を食べてもらいたいという想いで、家庭で実践できるような魚の調理法を教えています。



髪の毛と北前船の祈祷寺

春光山円覚寺

深浦町の春光山円覚寺には、国重要文化財「薬師堂内厨子」、国重要有形民俗文化財、全国でも珍しい髪の毛を用いて刺繍した掛け軸を所蔵・展示しています。嵐の中から生還した船乗りのチョンマゲが多数奉納されていることから船乗りの信仰の厚さを感じられます。



白神山地の神秘の池

青池

白神山地はその豊かな自然で世界自然遺産に登録されています。中でも「青池」は青いインクを垂れ流したような鮮やかな青色がとても美しく、多くの人々を魅了しています。

深浦マグロステーキ丼

水揚げ高では深浦町が青森県ナンバーワン！青森県深浦産の天然本マグロを刺身・片面焼き・両面焼きで頂く、マグロ尽くしどんぶり御膳です。町内7店舗。



ふかうら雪人参

青森県深浦町の農事組合法人舂作（へなし）興農組合が栽培している雪の下から収穫される「にんじん」で、野菜とは思えないフルーティな甘さが特徴です。





りんごもぎ体験

ふるさとセンター

世界150種約600本のりんごを栽培する品種見本園や資料室、加工場などを見学でき、10月～11月中旬までは、りんごもぎ体験もできます。



りんごにこだわった体験

ふるさとセンター内「工芸館」

りんご樹皮加工「林寿」やりんごの葉や枝などをじっくり煮込んで染め上げたりんご草木染め、りんご菓子などの体験ができます。



津軽最古の酒蔵

竹浪酒造

津軽最古の酒蔵は、江戸初期、藩都・弘前の川港としてたいへん栄え、酒造に必要な米・水・人に恵まれていた板柳町にあります。

幻の枝豆

板柳町と数軒の地元の農家が立ち上がり、農業不使用・化学肥料不使用、EM菌栽培で作られた安心・安全で、美味しいだけでなく、栄養たっぷりの「いたや毛豆」です。



りんご灯まつり

8月9日・10日(予定)の2日間、板柳町役場を主会場に開催されます。りんごの豊作と作業の安全を祈願するこの祭りのメインは、たわわに実るりんごを表している「りんご山笠」。2日目の夜「ノレサ! ノレサ!」の掛け声で町内を練り歩きます。



いたやなぎ
板柳町



りんごのミニ木箱作り

青森資材うばさわ

りんごを市場へ出荷する時に使います。年間40万箱を製造する工場、職人の熟練の組み立て技を見学し、りんごのミニ木箱作りも体験ができます。



鶴田町

つるた



「ジャンボシリーズ」が お土産として大人気

道の駅つるた 鶴の里あるじゃ

生産量日本一のぶどう・スチューベンが町の特産です。スチューベン餃子・パウンドケーキ・ゼリー等々。とにかくジャンボな「びっくり」パン・バーガー、バケツに入った豆腐、シュークリーム等が話題になっています。



日本一長い木造の 三連太鼓橋

鶴の舞橋(つるのまいはし)

青森県の新しい観光地として人気が高まる「鶴の舞橋」。女優・吉永小百合さんが出演するJR東日本「大人の休日倶楽部」の広告で、知名度が全国規模になりました。



甘くて美味しいスチューベン 観光ぶどう園

収穫量・作付面積が日本一なのがスチューベン。なんといってもその甘さが特徴。口いっぱい甘みが広がります。収穫時期は天候にもよりますが、9月下旬から10月下旬です。その時期に鶴田町へ来る際は、ぶどうの収穫体験がおすすめです。



はげの光は平和の光 暗い世の中 明るく照らす ツル多はげます会

はげをポジティブにとらえたユニークな団体です。創設日は、2月22日で、2(ツウ)が並ぶ“ツルツルの日”。以来、年2回、創設日と中秋の名月の日に「有多毛(うたげ=宴)」と題した例会を開いています。

「鶴田産の安心・安全な米や小麦を活用して、他店と差別化できる話題性のある名物商品を生み出したい」と開発された。

ジャンボシュークリーム

なんと通常(70g)の9割分の大きさ。シュー皮からはみ出さんばかりの生クリームとカスタードが、堂々たる存在感を放っています。



スチューベン大福

やわらかなモチモチの皮に鶴田町特産のスチューベンを詰め込みました。甘い餡とフレッシュなスチューベンの酸味が絶妙!





冬の農業

イネ子の畑から

水稲とトマトなどの複合経営に早くから取り組み、冬の農業としてのアスパラガス促成栽培も進めるなど、地域農業の活性化に貢献。地元農産物のおいしさや農業の魅力を子どもたちに伝える「給食おもしろい隊」などの活動を通じて、地域農業と中泊町の魅力を伝えています。



津軽伝統の人形劇

津軽伝統人形芝居

「金多豆蔵(きんたまめじょ)」

明治40年に創作されて以来、100年以上に渡って相伝された津軽伝統の人形劇です。



わんどの母ちゃんズ

中泊町ふれあいセンター

農村女性で組織する「中泊町グリーン・ツーリズムの会かけはし」の指導で夕食を共同調理して一緒に食べながら交流します。

中泊メバル膳

中泊町小泊地域で水揚げされるメバルは、「ウスメバル」というオレンジ色の魚体が特徴の魚です。他の地域であまり水揚げされないこの魚は、「津軽海峡メバル」と名付け全国に出荷されています。



中泊町「駅ナカにぎわい空間」

津軽鉄道の終着駅 津軽中里駅内の空き店舗を活用して誕生した「駅ナカにぎわい空間」では、地元の旬の野菜や魚介類、加工品などを販売しています。地元の人や観光客が交流を楽しむ拠点となっています。



農業者の 所得向上のために

中泊町特産物直売所「ピュア」

農業者の所得向上を目的とした直売所で、高齢の農家宅に向いて野菜を集荷するサービスも行っています。加工施設もあり、農家がジュース、瓶詰、豆腐や惣菜の加工にも取り組んでいます。



